

CARS 2006 体験報告記

高橋 規之

仙台市立病院 〒984-8501 仙台市若林区清水小路 3-1
(2006年8月31日受付)

Participating Report of CARS 2006

Noriyuki TAKAHASHI

Department of Radiology, Sendai City Hospital
3-1 Shimizukouji, Wakabayashi-ku, Sendai-city, Miyagi 984-8501, Japan
(Received August 31, 2006)

Abstract : This is a report of CARS 2006 (Computer Assisted Radiology and Surgery 20th International Congress and Exhibition) held at Osaka, Japan during the period of June 28-July 1, 2006. This congress has been held every year for 19 years since 1985, with the aim to provide a forum to close the gap between diagnostic and interventional radiology, surgery and informatics. This report describes my first experience of the presentation at an international congress.

Key words : International conference, Image processing

CARS (Computer Assisted Radiology and Surgery) の第 20 回 2006 年学術大会が、6 月 28 日から 7 月 1 日まで、大阪の国際会議場で行われました。日本で開催されるのは、1998 年の東京での第 12 回大会以来とのことです。CARS は、放射線医学分野では画像処理から CAD、放射線治療まで、外科分野ではナビゲーションやロボットを用いた外科手術までと、コンピュータを用いたあらゆる分野を含んでいます。当学会で、私は初めて国際学会でポスターセッションでしたが口頭で発表する機会を得ました。本稿では、その発表までの体験を報告します。

私は、仙台市立病院に勤務する診療放射線技師です。今年の春まで新潟大学大学院保健学研究科の修士課程で社会人学生として佐井篤儀先生の下、研究を行ってきました。その 2 年間の研究の結果を、当学会で報告することができました。CARS が今年日本で行われると昨年の秋に聞いたとき、初の国際学会での口頭発表経験はこの CARS でしかないと思いました。それは、きっと日本人が多く参加するに違いない、英語の壁が少し低くなるに違いないという一縷な願望からでした。この 2 年間、何とか英語論文の内容を理解できる程度の能力が身に付いたようですが、ヒアリング能力は未だ乏しい状態です。今更、学生時代の英語勉強不足を後悔しても仕方がありませんが、中学、高校と勉強した英語の発音はいったいなんだったのでしょうか？本物の英語と違いすぎます。

私は、Computer-aided diagnosis for acute stroke in nonenhanced CT という演題で CAR (コンピュータ支援放射線医学) のセッションでポスター発表を行いました。発表内容は、我々が提案するノイズ低減フィルタを用いて、CT 画像における急性期脳梗塞の検出を改善させるというものです。放射線科医による ROC 分析を行い、本手法を用いた場合に有意に検出率が向上することを報告しました。

私の演題がアクセプトされたらと通知がきてから、まず始めたことは英語のヒアリング練習です。「国際学会のため

の科学英語絶対リスニング」という本を購入しました。添付されている CD には学会発表でよく使用される発表と質疑応答のサンプルフレーズが豊富に収録されています。これを MP3 プレーヤーに保存し、毎日自転車通勤中、繰り返し聞きました。この方法は若干の効果があったと思います。しかし、学会開催一ヶ月前になっても発表形式、時間



写真 1 会場の大阪国際会議場



写真2 発表ポスターの前で



写真3 オープニングセッション

などの情報が配信されませんでした。これはひょっとしてポスターを貼るだけで終わることができるのではと、淡い期待をしたりしました。でも、そんなことはありません、直前に発表スケジュールが知らされました。

私の発表は学会初日でした。お昼からポスターを貼りましたが、周りにほとんどポスターが貼られていませんでした。発表時間にポスター会場を訪れると、まだポスターのない裸のパネルがほとんどという状態です。さらに、聴衆もちろはらと少ない感じがしました。これもスケジュール発表の遅れによる影響なのでしょう？そのセッションは全部で14題あり、私の順番は最後でした。ところが、私の前に4題しかポスターが貼られていません。

いざ自分の順番、実際に話す内容をポスター内に散りばめておけば良いという李先生の教えに従い、話を進めました。また、英会話ではアクセントが重要であると聞いていたので、前もってパソコンにインストールされていた Microsoft Bookshelf Basic を使い、発表に使う単語の一つ一つを再生して、アクセントを覚えました。聴衆に私の発表内容が理解されたかは定かではありませんが、これらの方法は非常に有効であったと自分では思います。期待通り座長も質問する方も日本人だったので、何とか質問内容を把握し答えることができました。しかし、最後の質問の方は、インド系の英語でした。何度聞いても理解できませんでした。国際学会では、さまざまな言語をもつ人が共通言語である英語を使います。最終的にはどんな英語でも理解できるようになる必要があることを痛感しました。無事発表を終えると、欲が出てくるものでもっと多くの聴衆者に自分の発表を聴いてほしかったと思いました。

CARS は、エンジニアや医師など様々な分野の研究者が集まります。したがって、自分の携わる分野以外の技術の進歩を知る上で貴重な場であると思いました。また、私のような研究を始めたばかりの新参者を受け入れてくれる寛容な雰囲気を感じました。次は、ぜひオーラルセッションでの口頭発表にチャレンジしたいと思いながら CARS 2006 の会場を後にしました。

最後に、本学会に発表するに際してご指導いただきました新潟大学医学部保健学科、佐井篤儀先生、李鎔範先生に深く感謝いたします。